

ほんだな

お

そらく日本で最初の障害者雇用を目的とする株式会社が1966年6月、東京都大田区西糀谷^{にしじょうや}で創設された。

両足まひや脳性まひの同志6人の工場は「トタン屋根の下には天井がなく、室温は40度を超え」「月賦払いで買った和文タイプライター3台、イタリア製の小さな輪転印刷機1台」「印刷業には誰もズブの素人、社長の私でさえ印刷の工程、見積もり計算すらまだ十分できない」。

障害者運動の「日本アビリティーズ協会」も発足させたばかり。大学卒業と同時に始めた無鉄砲極まりない挑戦だった。

案の定、赤字まみれの悪戦苦闘が始まった。大学サークルのピラや大学祭案内等で乗り切り、ハンセン病完治者も仲間を受け入れ、がむしゃらに走る。

ポリオの後遺症で足にまひが残る筆者は、高校卒業時、ざっと100社から門前払いされた。唯一受験できた証券会社に勤めながら大学で学ぶ。

「国家に養われ、卑屈で、怠惰な人生を送ることに満足できない」「保障された生き方よりも、つねに挑戦する人生を選ぶ」。そう書いた「アビリティーズ綱領」通りの生き方である。

70年安保闘争と大阪での万国博覧会の時代、著者は時の労働大臣へ「障害者の雇用を」と直訴状を送り、面談し、それは障害者雇用促進法として実る。欧米を回り、福祉機器の大事さを痛感し、事業転換を図る。銀座の歩行者天国を車いすで行進し、初の国際的な「リハビリ福祉機器展」を開く。バブル景気に沸き、文字通り泡と消えた1980～1990年

代、著者は休みなく、仙台市に障害者運営の大型書店を開き、障害者の海外ツアーを始め、高齢者のデイサービスや有料老人ホームづくりに取り組む。

エピソードの一つひとつが一編の小説よりおもしろい。

この半世紀、日本の政治や経済の歩みを語る人は数多い。だが、社会の少数派の果敢な挑戦を語る人は数少ない。本書は「もうひ

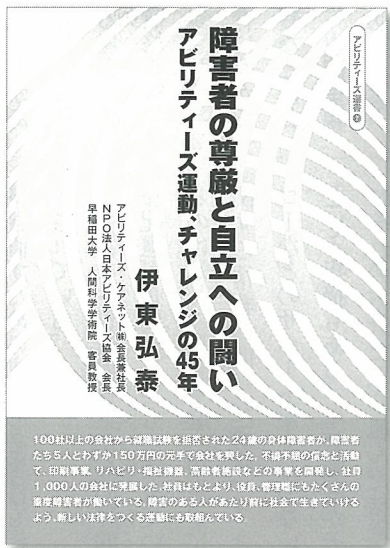
つつの現代史」であり、この闘志と知恵が日本の新たな現代史を切り拓くための、大きなヒントになるだろう。

そのひとつは、本書後半で熱く語る「障害者差別禁止法」制定運動である。自ら呼びかけ人のひとりとなって全国ネットワークを結成し、「市民宣言」を採択した。なお休む気配もない運動と事業の先行きは、続編を期待させる。

障害者の尊厳と自立への闘い アビリティーズ運動、 チャレンジの45年

伊東弘泰 著

企画・編集・発行／NPO法人日本アビリティーズ協会 ☎03-5388-7501
定価／1,500円（本体1,429円）



評者

宮武

剛

（目白大学大学院生涯福祉研究科教授）